

【研究ノート】

函館市における社会事業史研究③
—函館共愛会保育園の展開を中心として—

松田賢一，新沼英明，榊ひとみ

Study on History of the Social Work Projects in Hakodate City—Part3
—Focusing on the Development of
HAKODATE KYOUAIKAI Nursery School—

Kenichi MATSUDA, Hideaki NINUMA and Hitomi SAKAKI

1 はじめに

我が国の幼児教育の源流は、1876（明治9）年創設の東京女子師範学校附属幼稚園（以下「附属幼稚園」）から端を発している。附属幼稚園は、裕福な家庭の子という、限られたほんの一部の子どもだけを保育の対象としていたが、その後の日本の幼稚園普及発展に大きな足跡を残した。

附属幼稚園創設から14年後の1890（明治23）年、後の保育所の原形となったといわれる「託児所」が出来る。それは、赤沢鍾美・ナカが開設した、家塾・新潟静修学校に児童が子守の為に連れてくる乳幼児のための「託児施設」であった。

北海道では、1905（明治38）年に日露戦争時、出征軍人遺族が生計を立てるために働く必要性に迫られ、これを助けるために社団法人函館慈恵院によって託児所が開設された。北海道の保育所の先駆的な役割をした。（北海道社会福祉事業史1987）

このように源流の違いが日本の幼児教育の二元化となっていくのである。即ち上層階級の子ども達が入る幼稚園と日々保育に欠ける子ども達の養育をする託児所（のちの保育所）である。この託児所の経営の多くは篤志家によるものが多かった。

特に、1891（明治24）年、石井亮一が20名余の女子孤児を引き取り、後の「滝乃川学園」を設立した。翌年1892（明治25）年93人の震災孤児を引き取って「岡山孤児院」を設立した石井十次が挙げられる。（白石2012）

一方、上層階級の子ども達を対象としていた幼稚園の保母の中から、児童保護事業に尽くす人物も現れた。野口幽香と森島峰である。彼女らは貧民子女救済の為1900（明治33）年に私立二葉幼

稚園を創設するが、裕福な子ども達を保育する傍ら毎日の通勤時に見る貧しい子ども達に目を向け、幼稚園の子ども達と同じ様に保育をしたいと考え、1916（大正5）年、幼稚園を名称変更し二葉保育園を作ったのである。（宍戸2014）

このようにして、1890年代以降は、人道・博愛精神に基づく慈善事業が各地で展開されるようになった。

今回筆者らが研究対象とした、函館共愛会が創設した保育園の発端は、1934（昭和9）年に起こった「函館大火」である。沢山の尊い人命が失われた大火災であった。その時にいち早く立ち上がって陣頭指揮をとり、復興に尽力したのが当時の函館市長坂本森一¹であり、函館共愛会の初代理事長であった。彼もまた人道・博愛の精神をもって様々な事業に精力的に取り組んでいった。その一つが託児所の経営であった。

本論の課題は、函館共愛会が経営する託児所が函館大火後どのような経緯で設立され、現在まで発展したのかを明らかにすることである。この課題を明らかにするために、関連文献、函館市誌等の資料を調査した。

2 1934（昭和9）年の「函館大火」と託児事業

2-1 1934（昭和9）年の函館大火

函館市消防本部のホームページ及び函館大火災害誌（1937）（以下「災害誌」）に「函館大火」の沿革が掲載されている。函館における大火史は、1779（安永8）年の江戸時代から始まり、1955（昭和30）年まで30回の大火の記録がある。火災の一番多かったのは、明治時代で実に20回を数えた。うち、焼失戸数千戸以上の大火災を表1に

表1 函館の大火史（焼失戸数千戸以上）

年月日	焼失戸数	備考
1871（明治4）年9月12日	1,123戸	山の上町切見世長屋（遊女屋）から出火したので、俗に「切見世火事」という。
1873(明治6)年3月22日	1,314戸	豊川町1丁目から出火。俗に「屋根屋火事」という。
1889(明治12)年12月6日	2,326戸	33町焼失。両陛下より3,000円御下賜金を賜る。義援金は、12,100円に達した。
1896(明治29)年8月26日	2,280戸	俗に「テコ姿火事」という。両陛下より御救済金2,200円賜る。
1899(明治32)年9月15日	2,494戸	両陛下より2,800円御下賜金を賜る。
1907(明治40)年8月25日	12,390戸	罹災面積400,000坪、死者8名、負傷者1,000名 焼失町20町、両陛下から罹災者救済のため、13,000円の御下賜金を賜う。義捐金70,098円
1913(大正2)年5月4日	1,532戸	損害額634,707円
1916(大正5)年8月2日	1,763戸	損害額700,000円
1921(大正10)年4月14日	2,141戸	明治以降最大の大火、両陛下より御救済金5,000円を賜う。
1934(昭和9)年3月21日	24,186戸	死者2,166人、重傷者2,318人、軽症者7,167人 罹災人口102,001人、損害額合計:123,918,027(当時の金額)、両陛下から御救済金70,000円賜る。

※作成には以下の資料を参考

- 1 函館市消防本部「函館の大火史」<http://www.hakodate.hokkaido.jp>
- 2 函館大火災害誌(1937)．財団法人北海道社会福祉事業協会 p2－7

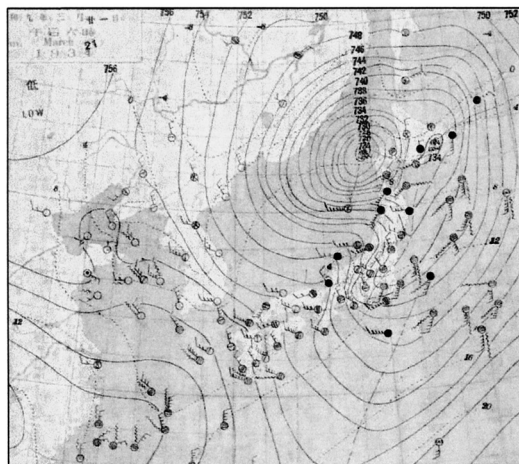


図1 1934(昭和9)年3月21日18時の天気図

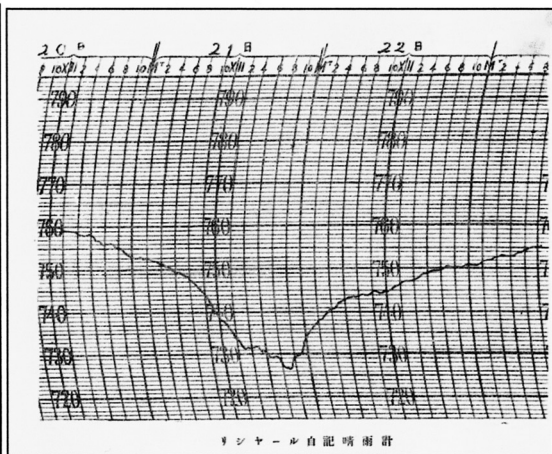


図2 1934(昭和9)年3月21日午後9:20の気圧

※出所:函館地方気象台火山防災調整係長 葛西堅造氏

まとめた。表1からは、千戸以上焼失した大火災は10回を数え、1907（明治40）年と1934（昭和9）年には1万戸以上の焼失した大火であることが読み取れる。1934（昭和9）年の大火が後に「函館大火」と呼ばれる所以は、焼失戸数が1907（明治40）年の倍であること、さらには、死者（2166名）・重傷者等合わせて11,651人にのぼっていることから、これまで函館市民が経験したことの無い大火災であったことが推察される。

1934（昭和9）年3月21日午後6時53分、函館市住吉町の民家から発火し、風速20mに及ぶ東南の烈風に煽られ瞬時にして延焼拡大した。北海道気象月報（1934）によると、同日午後7時20分に最大風速24.2m/sを観測、午後9時20分には最低気圧727.6mmHg（現在の単位に換算すると約970hpa）を観測したとある。図1は、その時の天気図であり、図2は、その時の気圧を表している。急激にそれも異常に発達した低気圧であったことが理解できる。その強い風に煽られ火災は、青柳町より豊川町、鶴岡町、松風町、新川町方面を襲った。消防隊及び軍隊等が必死の消火活動も、物凄い風と倒壊した家屋、電柱等の障害物に妨げられ、その機能を十分に発揮できなかつた。

その時の具体的な状況は、災害誌（1937）に「当時の風速の如何に猛烈を極めたかは、火災前既烈風のため、電線の切断、家屋、煙筒、電柱、立木等の倒壊随所に頻発し、波浪のため船舶の遭難多く港内及び住吉町には甚大なる被害があり、屋根を剥がれた家屋1千戸を超えたことによっても知ることができる。」と記載されている。

その後、風向きが西方に変化するに伴い、末広町、会所町、元町方面へと火は移ったが、二十間坂で延焼を食い止めた。しかし、風下に位置する新川町、堀川町、的場町へと移り、さらに北方に向かって延焼した。異常な延焼状況に危機感を感じた坂本市長らは早急な応急対策を施すのである。同日午後9時頃、内閣諸官署各大臣、北海道庁長官、各新聞社等に対して、応急救護の為、函館市秘書係 山澤に命じ打電させた。命令を受けた山澤は、函館港内に入っている北日本汽船会社の天佑丸から、次のような内容の電報を發した。

「21日午後5時、東南の烈風吹き倒壊家屋無数の処、6時半、当市住吉町より失火、現在まで約1萬78千戸焼失、風は西に変わりしも未だ延焼中にて、消防の決死的努力も遂に空し。身に一物も

なき罹災者は烈風と雲の中、右往左往す。各位何分の応急の救護を懇願す。函館市長 坂本森一」（災害誌1937）

電報の内容にある通り、3月21日は、激しい風とともに曇交じりの天候であったことが伺える。災害誌（1937）には、3月21日の午前6時から鎮火する3月22日午前6時までの気温の状況が克明に記述されている。出火直後の同日午後7時の気温が7.3度であり、避難している時の気温が午後11時には、1.9度まで下がり、被災を避けようと市民が逃げ回っていた時間帯は温度が2度より低い状態であったことが分かった。非常に強い風と低い気温は、人々の体温を想像以上に奪っていったものと考えられる。

翌22日午前6時頃鎮火した。実に一夜にして函館市の三分の一を烏有に帰した火災であった。函館市民にとっては、筆舌に尽くし難い被害となった。

図3は、災害誌（1937）にある「函館市大火説明図」を筆者が抜粋したものである。図の左側が函館山、●の印が発火元であり、矢印は風向きを現している。図の黒い部分が焼けた箇所を表す。凡そどのように延焼したかが理解できよう。

坂本市長からの電報を受けて、北海道庁内に「北海道函館火災救援会」が組織され、全国民の博愛の精神に訴え、義援金、救恤品の募集をする。

函館市においても、大火直後の対策として、罹災失業者調査をいち早く行い、職業斡旋、託児事業等の整備にかかることになる。

後に「函館大火」といわれることになる、この火災の災害状況が災害誌（1937）に記載されている。次の通りである。

「(1) 罹災戸数 24,186戸 (2) 罹災人口 102,001人（昭和9年火災直後の函館警察署における調査） (3) 死者2,054人〔焼死748人、溺死917人、凍死217人、窒息死143人、その他29人〕（昭和9年5月7日調査） (4) 行方不明者 662人

死者が多数に及んだ原因については、①急速な台風は火勢の進行とともに、猛烈なる火流火幕を伴い、避難中逃げ遅れたため ②火の粉が風下全市に及び避難者の方向を誤らせた ③東川及び大森海岸一帯は波高く、火災の時は満潮時であり、火焰を逃れて海岸に避難したものの、凍死したこと。④台風の為歩行困難で、時々吹き飛ばされ疲労が著しかったため ⑤大森橋は避難者の荷物に

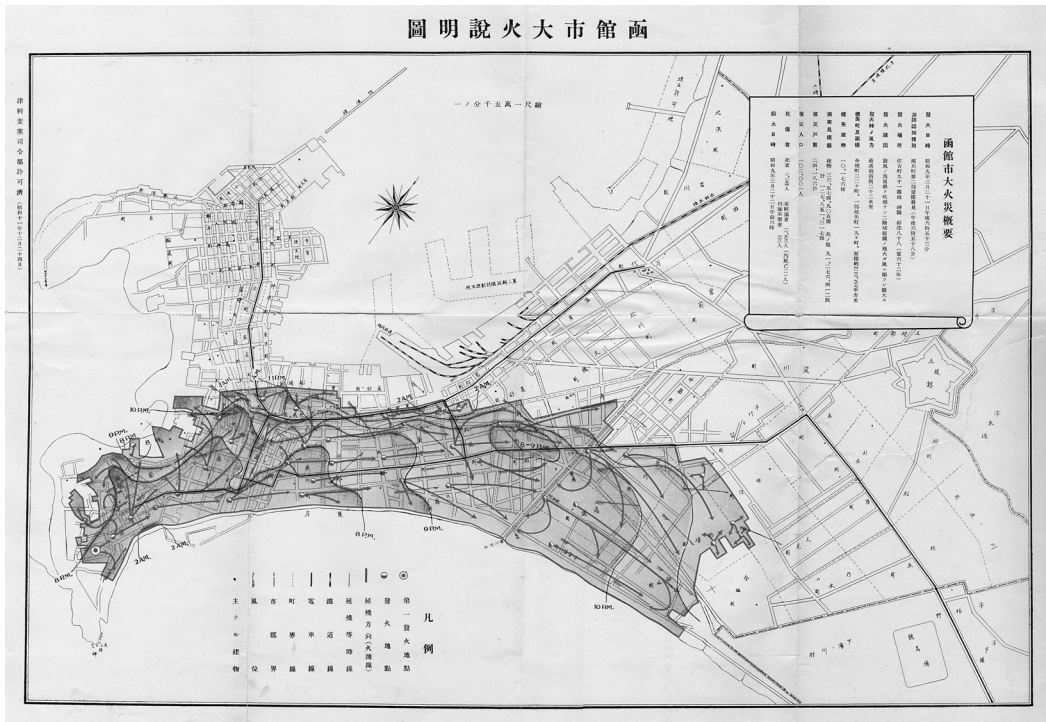


図3 函館大火説明図(函館大火災害誌1937)

飛び火して焼け落ち、高森橋、新川橋は雑踏の為破壊、満潮時の新川に転落し溺死又は凍死した。

(5) 焼失町名 (全焼22町) 住吉町, 青柳町, 春日町, 相生町, 曙町, 壽町, 恵比寿町, 蓬莱町, 東川町, 賽町, 榮町, 汐止町, 地蔵町, 西川町, 旭町, 松風町, 東雲町, 大森町, 千歳町, 高盛町, 宇賀浦町, 砂山町 (その当時の町名をそのまま記載)

(6) 焼失面積 4,163,967平方メートル (7) 損害額及び焼失建物数・損害総額 1億2785万1317円・焼失建物数 1万176棟

行方不明者については、火災当時、大森浜及び新川に入り、波にのまれ沖に流されたものである。

2-2 託児事業の開始

託児事業の発端については、災害誌(1937)に「火災直後に於ける罹災者の家庭としては父兄の復興就労上、子弟の保健上、幼児委託の必要は寧ろ火災前に数倍することは言を俟たざる所である。」と記述されている。

函館市の、火災前の託児事業は、函館慈恵院、

日本聖保禄会函館支部、興友社ホーム、愛の園の四箇所であったが、火災後は無料託児所の開設を計画し、その実現に至った。開設した託児所については、災害誌(1937)から以下のように整理できる。

1 谷地頭保育園

昭和9年3月27日、大日本聯合婦人会は函館市火災救援に関し、代表会議を開き、災後函館市には託児所の開設が最も緊要である旨とし、徳永恕子女史に経営指導の任に当たらせた。同女史は4月早々に来函し、各関係者と折衝した。特に渡邊熊四郎氏の所有地を懇望し、テント4張りの急造託児所を仮設し、4月11日より事業を開始した。施設概要は次の通り。

- 一位置 函館市谷地頭町93 (谷地頭バラック附近)
- 一経営者 大日本聯合婦人会
- 一収容人数 幼児約70名, 学童約120名
- 一開設年月日 昭和9年4月11日
- 一職員数 主任徳永女史ほか保母6名

2 子どもの学校

増上寺社会課長野村在定氏の計画斡旋の下，応急収容施設たる東川バラック附近に託児所「子どもの学校」が開設された。

3 西別院保育園

大火災後，京都本派本願寺より急派された保母（6名）らにより，4月1日より，市内駒止町本派本願寺駒止説教所並びに市内元函館実践高等女学校講堂内の2箇所設けて保育事業が開始された。

4 新川大谷保育園

大谷派函館別院は，火災直後の4月1日より市内海岸町，千代ヶ岱町，松風町，新川町の4箇所に託児所を設置して罹災幼児の保育事業に従事した。海岸町と千代ヶ岱の2箇所は住宅バラック移転に伴いなくなり，松風，新川を併合し，朝倉冷草氏の指導の下大平輪番を園長とし，2名の保母を置き，大谷高等女学校補習科生徒の援助を受け，罹災幼児の為，活動する。

5 松風大谷保育園

火災直後4月1日より開設し，4月5日海岸町，千代ヶ岱の2託児所を併せ姉妹関係にある新川大谷保育園と協力し罹災者の幼児を受託した。

6 鈴蘭園

大火後，遺愛女学校のミス・ワグナー女史によって計画され，応急収容施設たる新川東部，西部バラック居住者のため，その附近地域に天幕張り託児所を設け，4月11日より事業を開始した。鈴蘭園は，託児事業のほかに通学指導の指導，青年指導，人事相談等社会事業に貢献した。ミス・ワグナー女子の帰米に際し，函館市長は記念品を同女史に贈り感謝の意を表した。

7 「興友社ホーム」

大火前は，函館市松風町58にあり，焼失して一時休所となった。その後，財団法人函館共愛会に併合し，第一託児所となる。

- 一 位置 函館市新川町104
- 一 経営者 「興友社ホーム」代表者栗栖伸治
- 一 建物 平家バラック建 建坪30坪
- 一 開設年月日 昭和9年6月15日
- 一 職員数 栗栖伸治ほか2名
- 一 収容人数 男51名 女50名

8 「愛の園」託児所

「愛の園」は，函館大火前より託児部，救済部，修養部，児童指導部の4部に分かれ，基督教主義の下，経営された社会事業団体である。焼失後同位置に13坪の託児所建物を建て，4月21日より開

所するも，後に高盛町に35坪の平家建バラックを建設して移転し，10月21日より開所する。

- 一 位置 函館市高盛町74
- 一 経営者 「愛の園」代表者 清野鐵之助
- 一 建物 平家バラック建 建坪35坪
- 一 収容人員 男35名 女 42名
- 一 開所年月日 昭和9年4月21日
- 一 職員数 園長 清野鐵之助ほか3名

9 天主教教会託児所

- 一 位置 函館市宮前町77
- 一 経営者 亀田天主教教会
- 一 建物 教会の建物82坪66を充当する
- 一 収容当初 男22名 女 32名
- 一 昭和9年5月開所し，同年9月末ドミニコ幼稚園の設立認可と共に託児所を閉止す

以上のように大火前には，4託児所だけであったが，大火後は，9箇所に増えた。それは，人道・博愛の精神によって様々な団体が罹災した子ども達の為に，素早い対応をしたことが理解できよう。そして，その中に，後に財団法人函館共愛会設立後託児所になる原型が伺える。

3 財団法人函館共愛会の設立

災害誌（1937）によると，火災直後の3月23日，坂本市長は応急善後処置並びに函館市更正を願って緊急市会議員協議会を公会堂にて開催し，早急な復旧を目指すこととし，4月3日北海道庁関係者並びに函館市在住の官民により，函館市復興会発起人会が設立された。そこでは，復興具体案が練られ，4月8日「函館市復興会」を創立した。総裁には，北海道庁長官佐上信一氏，副総裁に北海道庁内務部長の西山茂氏，そして，理事長に市長である坂本森一が就任した。

また，坂本函館市長は，4月5日復興推進の為，罹災市民に対して激励の告示を発した。

函館市大火災後，坂本市長は特に社会的施設の必要性を痛感し，大火から約半年後の1934（昭和9）年9月1日資本金137万円をもって，財団法人函館共愛会を函館市役所社会課内に創設し，坂本函館市長が初代理事長に就任した。また，全国から寄贈を受けた義捐金345万4557円（現在の金額で約25億余り）²の一部，168万3071円（現在の金額で約12億余り）³を函館火災救援会長であった佐上信一北海道庁長官から交付を受ける。1934

(昭和9)年11月16日、財団法人函館共愛会は、内務大臣から設立の認可がなされた。函館市における最新にして最大規模の社会事業団体となった。その事業の種類と発足役員は次の通りである。

(1) 事業の種類

- ① 住宅の経営 ② 託児所の経営
- ③ 簡易宿泊所の経営 ④ 職業紹介施設
- ⑤ その他社会事業に関し必要と認める施設並びに助成

(2) 創立当時の共愛会役員 (昭和9年9月1日)

※財団法人函館共愛会財政並びに事業概況
1947 (昭和23)年4月調より

設立者	理事長	坂本森一
	理事	長橋茂男, 弥吉茂樹, 小熊幸一郎, 松下熊槌, 相馬哲平
	評議員	坂本作平, 岡本康太郎, 梅津福次郎, 恩賀徳之助, 菊地洲二, 山崎松次郎, 登坂良作, 石館友作
	監事	渡辺熊四郎, 坪山照次
	幹事長	杉村大造

災害誌 (1937) に事業経営の状況が克明に記述されている。概要は以下の通りである。

① 昭和10年7月～11月までに、函館市人見町に普通住宅54棟72戸の建築竣工し貸し付け

を開始、昭和11年5月末日現在に於いて45戸を貸付入家し家賃の収入成績善良である。

② 昭和10年6月～昭和11年4月までに高盛町に簡易住宅65棟26戸を建築し、順次貸付をし、家賃の低廉により常に申し込み殺到し、全部貸し付け入家し家賃の納入成績良好である。

※図4は、昭和11年6月22日に撮影された高盛町の簡易住宅の様子である

③ 昭和10年9月、砂山町に簡易住宅13棟52戸を建築士、救護法その他の被救護者に最も低廉なる家賃を以って貸付全部入家し、家賃完納の成績である。

④ 昭和11年2月～4月までに宇賀浦町に簡易住宅34棟68戸を建築し、家賃の低廉により全部貸し付け入家し家賃の収入は良好である。

⑤ 昭和11年2～3月にわたり冬期失業者救済の為除雪その他道路清掃等の就労者賃金中に1,200円を支出し、函館市と協力救済した。

⑥ 昭和10年度末に際し、貧困者救済のため函館市と協力し、3,328円48銭を支出し貧困者を救済した。

このように発足したばかりの財団法人函館共愛会であるが、早々函館市民のため住宅の確保と貧困者、失業者の為、様々な政策を実行していることが理解できよう。



図4 函館共愛会高盛町簡易住宅の様子(昭和11年6月)
出所:昭和11年度版 函館市社会事業施設概要

4 財団法人函館共愛会 託児所の設立

2-2に示した通り，函館市長の声に賛同した各団体によって，9箇所の託児所が設置され，子ども達の保育に従事していたことが確認できた。1934（昭和9）年9月に設立した財団法人函館共愛会においても，その事業の中に託児所経営が盛り込まれている。大火後に開設された，一部の託児所は，やがて函館共愛会が運営していくことになる。その経緯について函館市誌（1935）並びに災害誌（1937）に記述されている。

函館市誌（1935）によると「函館共愛会は，児童保護事業としては，市内に四ヶ所の保育園を経営することに決定，各保育園には授産設備を整へ，指導主児及び方面委員を置いて児童の性格や家庭の事情を調査して教導することになっている。右四ヶ所のうち目下決定しているのは，新川町の第一保育園，谷地頭の第二保育園，高盛町の第三保育園で，臺町の第四保育園は未だ事業の開始をみていない。」

以下の3園は，函館市誌（1935）によると次のような経緯で開設されることとなる。

(1) 第一保育園の前身は「興友社ホーム」である。上述の通り，栗栖伸治が代表を務める「興友社ホーム」（大火前の所在地は，松風町58）は大火により焼失し，一時休所していたが，財団法人函館共愛会に合併し，第一保育園となった。「興

友社ホーム」の歴史は，函館市誌（1935）によると「創立は1926（大正15）年10月26日であり，栗栖伸治が代表を務め賛助会員により経営をしていた。1927（昭和2）年12月興友社ホーム創立発起人会を開き，会長に松下熊槌，副会长和泉泰三，評議員小熊幸一郎等17名が決定し，函館市及び北海道庁より事業助成補助金の交付を受ける。このホームは，函館初のセツトルメントとして生まれ，宗教・青年部・社会の三部に分かれ，日曜学校，童話会，夏季学校，人事相談，託児所等の事業を行った。同ホームは，大火災後の1934（昭和9）年6月15日，新川町104に平家バラック建て開設されたが，1936（昭和10）年4月1日財団法人函館共愛会に合併され，興友社ホームは解散した。創立から解散までの事業実績については，三部合わせて利用者数は，16万7050名を数えた。函館共愛会との合併後，第一保育園の主事は，栗栖伸治が務め，開園以来247名の子ども達の託児をおこなっている。職員は外3名である。」と記述されている。興友社ホーム創立時の会長の松下熊槌と評議員の小熊幸一郎は，後に財団法人函館共愛会の創立当時の理事に就任する。

大火災後から函館共愛会に合併されるまで，託児の延べ人数の合計は，10,410名である。実に多くの子ども達がこの施設に通っていたことが分かる。



図5 函館共愛会第三託児所(昭和11年6月)の様子
出所:昭和11年度版 函館市社会事業施設概要

(2) 第二保育園の前身は「谷地頭保育園」である。大日本聯合婦人会が経営していた、谷地頭保育園は財団法人函館共愛会に合併された。その沿革は次の通りである。

谷地頭保育園ができたのは、1934（昭和9）年4月11日で場所は谷地頭町93番地であった。開所当時は、市営谷地頭バラックの児童を毎日約60～70人収容し、婦人会本部から派遣された主任佐藤イハホと保母5名が罹災者指導の託児を行い、その他時間外に小学児童の校外教育に当たっていた。また、母の会を組織して、授産の道を講じエプロンや浴衣等を作って賃金を稼いでいた。翌年4月に財団法人函館共愛会に経営が移管されることになり、佐藤主任らは東京本部に引き上げることになった。佐藤主任の後任として、元函館慈恵院託児所に在職していた堂腰キミが引き受けることになった。開園から函館共愛会に移管されるまでに谷地頭保育園が扱った託児の延べ人数は、27,039名であった。

(3) 第三保育園の前身は「愛の園」である。清野鐵之助が経営していた「愛の園」は、函館共愛会と1935（昭和10）年に合併した。「愛の園」は、貧民窟に於ける隣保事業とキリスト教による教化事業を目的として、1925（大正14）年1月15日に設立された。清野鐵之助とその妻タニの「愛の園」創立頃の活動については、作山すみ子著『道南の女たち』（1995、道南女性史研究会編著）に詳しく掲載されている。概要は以下の通りである。

清野鐵之助は、1898（明治31）年2月27日に函館住吉町で生まれ、園田牧場で働きながら、渡島当別のトラピスト修道院にバターやビスケットを作るための原料である牛乳を馬車で毎日届けていた。当時トラピストには、後に童謡「赤とんぼ」を作詞することになる、三木露風が居り、この時知り合いとなる。

露風の紹介もあり、鐵之助は、東京本所区二葉町でキリスト教産業青年会社会事業「愛の園」を主宰していた賀川豊彦の下で4年間ボランティアとして働きながら勉強することになる。その後、鐵之助は函館に戻り、1925（大正14）年1月15日函館市高大森町（現在の宇賀浦町）に「愛の園」を創設した。その家は、元賭場で借り手がなく、月5園で借りることができた。タニと鐵之助の知り合うのは、「愛の園」創設1年後であり、タニ

は、鐵之助から結婚を申し込まれる。タニの父親は「なんぼ許婚でも貧民窟に入っている男に嫁にやる訳にはいかない」と反対したが何度もタニの家に足を運び、1926（大正15）年4月3日函館相生教会で結婚式を挙げた。鐵之助29歳、タニ21歳であった。

その頃の「愛の園」の経営は厳しいものがあり、ウィリアム・レンニー氏（当時、函中、商船、商業の3校で英語教師をしていた）から月十円、医者で後の函館市長となる斉藤与一郎氏、函館病院小児科医 阿部龍夫氏、商船学校長、遺愛女学校小畑信愛校長等の応援を受け、一口一円の補助金で経営していた。

当時砂山は「部落」と呼ばれ、貧しい人たちが住んで生活していた。「愛の園」は、毎週水曜日と金曜日は児童の宗教教育、他の日は家を開放して児童図書館の形式で学習指導を行い、日曜日には商船学校・函館商業学校の生徒が手伝いに来ていた。

タニが、長屋の子ども達の面倒を見ようと決心し、夫の鐵之助に話すと「今、愛の園で託児所をやる金はない」と反対された。タニは、早々にレンニーを訪ね「五円」を借り、横一尺、縦三尺の板に「三歳から五歳までの子どもを無料で預かります」と記し、託児所「愛の園」が創設された。大火後の「愛の園」については、「夫婦で苦勞して創設した託児所『愛の園』は、昭和9年3月21日に発生した函館大火の為、託児所は焼失した。大火直後の4月、清野は、日本キリスト教連盟及び賀川豊彦氏の主宰する会等からの援助により、園舎を建て、3月22日から託児所を開設した。しかし、同年10月貧民窟の移動と共に『愛の園』も移転の必要性に迫られ、函館市高盛町794番地に移転し、昭和10年2月、社会事業統制の見地から財団法人函館共愛会の併合相談を受け、同年3月31日を期してその経営を函館共愛会に移管したのである。」と函館市誌（1935）に記されている。

以上の三園は、上述のような経緯で財団法人函館共愛会 第一保育園、第二保育園、第三保育園として継承されていくことになった。

1935（昭和10）年4月1日 財団法人函館共愛会は次の保育事業を新たに開設した。

- ・函館共愛会託児所第一保育園（定員100名）
（旧）新川町 託児所興友社ホーム
- ・函館共愛会託児所第二保育園（定員100名）

(旧) 谷地頭町 谷地頭保育園
 ・函館共愛会託児所第三保育園 (定員100名)
 (旧) 高盛町 託児所愛の園
 この3園の開設から遅れること8ヵ月後の1935 (昭和10) 年12月1日に、函館市駒止町に函館共愛会託児所第四保育園 (定員100名) が開設された。さらに、1935 (昭和10) 年12月13日保育園から託児所に名称変更した。
 (新) 函館共愛会第一託児所 (新川町)
 (旧) 函館共愛会託児所第一保育園
 (新) 函館共愛会第二託児所 (谷地頭町)
 (旧) 函館共愛会託児所第二保育園
 (新) 函館共愛会第三託児所 (高盛町)
 (旧) 函館共愛会託児所第三保育園
 ※図5は、1936 (昭和11) 年の第三託児所の様子である。
 (新) 函館共愛会第四託児所 (駒止町)
 (旧) 函館共愛会託児所第四保育園
 これら4園の事業成績が災害誌 (1937) 詳しく記載されている。表2は、1934 (昭和10) 年度、託児所の事業成績を筆者が一部改変し作成したも

のである。この表からは1ヶ月平均392人と多く子ども達が利用していたことが見て取れる。災害がもたらした需要ではあるが、未来ある子ども達のため着実に保育事業が展開されている。

さらに、1936 (昭和11) 年版「函館市社会事業施設概要」の私設社会事業団体の冒頭に財団法人函館共愛会の状況が次のように記述されている。以下託児所関連のみを整理した。

第一託児所：函館市新川町99番地
 建物木造平家建 建坪45坪
 収容在籍者110名
 延人員 21,581名
 第二託児所：函館市谷地頭9番地
 木骨鉄網コンクリート2階建
 建坪92坪
 収容在籍者94名
 延人員 17,855名
 第三託児所：函館市高盛町184番地
 木骨鉄網コンクリート2階建
 建坪127坪416
 収容在籍者135名

表2 財団法人函館共愛会 昭和10年度託児所事業成績

月	収容児童			
	実人員	延べ人員		
昭和10年	4月	276人	4579人	
	5月	382人	5399人	
	6月	382人	5913人	
	7月	384人	6452人	
	8月	386人	6194人	
	9月	382人	6147人	
	10月	314人	6629人	
	11月	327人	6303人	
	12月	418人	7596人	
	昭和11年	1月	460人	5308人
		2月	477人	7624人
		3月	515人	9606人
1ヶ月平均	392人	6497人		

函館大火災害誌(1937). 財団法人北海道社会事業協会 p416 筆者一部改変

延人員 21,322名

第四託児所：函館市駒止町32番地

木造平家建 建坪83坪61

収容在籍者80名

延人員 5,554名

※収容在籍者と延人員は、昭和11年4月末日
「事業概況」

「託児所は、第一託児所（新川町）、第二託児所（谷地頭）、第三託児所（高盛町）、第四託児所（駒止町）の四箇所あり、これらの中、第二、第三の二託児所は新築せるものにして、第四は既設建物を改造利用し、第一は、目下仮建設のものなるも共愛会館の竣工を俟ちて之に移動するものなり。

各託児所には、指導主事一名、保母三名を置き、保育指導に当たらしめ、目下八十名から百三十名の幼児を収容せるが、特に幼児の保健に留意し、毎月一回囑託医師をして、その健康診断を実施せしめつつあり。」

また、災害誌（1937）には、「授産事業の初歩の試みとして、第三託児所に於いて2回、第二・第四託児所に於いて、各1回その託児所内授産室で約10日間、婦女子に対する編み物の授産講習を行いたるに受講者多く、成績は頗る良好である。」という記述があり、どのような保育事業等を展開していたのかが理解できる。各託児所の建設に関わることについては、特に第一託児所が昭和12年完成する「共愛会館」に移転する旨が記載されている。保育については、指導主事（現在の園長並びに主任クラスと考えられる）と保母3名が保育に携わっている。子どもの健全発達の為、毎月1回医師の健康診断を実施していること、そして、第一託児所を除く3託児所では、婦人等に編み物講習会を実施している。母親等に対する配慮もしっかり施していることが具体的に読みとれる。

財団法人函館共愛会は、寄付行為等もいち早く整備していくが、最初に出来たのが「函館共愛会託児所規程」であり、「財団法人函館共愛会例規」（1939）に記載されている。概要は以下の通りである。（規定は原文通り）

「函館共愛会託児所規程」1935（昭和10）年4月24日制定、1936（昭和11）年4月11日改正

第一條 本会は、函館市内若しくはその近郊枢要地に託児所を設置し、託児の保育指導を為す。

第二條 託児所の名称及びその収容定員数は別に之を定む

第三條 託児所に入所せしむべき児童は、満三歳以上学齡未滿の者とす。但し、特別の事情ありと認むる者及び發育優良の者に在りては、満二歳以上三歳未滿の入所を許容することあるへし

第四條～第六條は省略

第七條 託児所の執務時間は、左の通りとす。但し時宜に依りこれを伸縮することある

・四月一日～八月末日

午前六時より午後六時まで

・九月一日～十月末日

午前七時より午後五時まで

・十一月一日～三月末日

午前七時より午後四時三十分まで

第八條 託児所の休日は左の如し、託児の依頼があるときはこの限りではない

一 紀元節

二 天長説

三 明治節

四 歳末歳首

十二月二十九日～一月五日

第九條 保護者は児童一人一日に付貳錢の間食料金を納むへし。但し同一保護者にして二人以上入所せるものに付ては、一児童を除く外一人につきその半額とす。

第十條・第十二條は省略

第十一條 在所中の児童には、毎日間食を給す
附則

第十三條 本規程は、昭和十年五月一日より之を施行す。

この規程は、大火の翌年から施行され、第一、第二、第三、第四託児所が本格的に保育事業を開始する為の基盤となった。規程から次の事が読み取れる。入所可能な年齢については、3歳以上の児童で小学校上がるまでであり、現代の幼稚園の形態に似ている。また、この規程を読む限りでは、保育料は徴収されていない。これは、大火後の親の負担を考慮したものと考えられる。ただし、間食料金（おやつ代）だけを貰っていることがわかる。さらには、保育の時間形態が季節に寄って異なっていることから柔軟性をもった運営であったと考えられる。この4園が函館共愛会の基盤とな

り保育事業が展開されていく。

4園が軌道に乗りだした1937（昭和12）年に、保育の必要性に迫られ同年12月25日に函館共愛会第五託児所が函館市亀田町8番地に開設され、その後5つの託児所体制で保育事業を運営することになっていく。

しかし、この先日本は、太平洋戦争への道を歩みだしていくことになる。そのことが如実に伺える資料がある。「財団法人函館共愛会 昭和十八年事業実績」（1943）である。

総説に「本会は創立以来ここに九年実施事業として、住宅、託児所、食堂、図書館、授産場及び結婚相談所を経営し逐年良好なる進展を為し、来

れるが特に本年は曠古の決戦体制下に於ける国策の要請に応じ諸事業内容の充実と使命の達成に真摯敢闘し、その実績を昂揚せり。」という記載がある。また、託児所の事業実績の解説には「本所託児の保育並びに衛生に関しては、毎月指導主事会及び保育研究会等を開催し普通の向上に努めたるが、特に本年より戦時託児所としての内容を充実し時局の要請に応えたり」という記述もある。

太平洋戦争は、1941（昭和16）年12月の真珠湾攻撃からが始まる。この資料が編まれたのは、太平洋戦争が始まってから、2年後のことである。財団法人函館共愛会の組織も戦局を絶えず気にしながら運営している様子が伺える。昭和18年の

表3 財団法人函館共愛会 昭和18年事業実績 各託児所年齢別人数一覧

	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	合計
第1託児所（新川）	男 2	男 9	男 23	男 40	男 32	男 22	男 128
	女 1	女 17	女 22	女 26	女 27	女 25	女 118
	計 3	計 26	計 45	計 66	計 59	計 47	計 246
第2託児所（谷地頭）		男 6	男 8	男 18	男 33	男 19	男 84
		女 5	女 19	女 14	女 16	女 7	女 61
		計 11	計 27	計 32	計 49	計 26	計 145
第3託児所（高盛）		男 2	男 8	男 33	男 28	男 22	男 93
		女 5	女 13	女 23	女 20	女 13	女 74
		計 7	計 21	計 56	計 48	計 35	計 167
第4託児所（駒止）		男 7	男 18	男 23	男 26	男 25	男 99
		女 6	女 15	女 21	女 20	女 22	女 84
		計 13	計 33	計 44	計 46	計 47	計 183
第5託児所（亀田）		男 5	男 13	男 25	男 27	男 24	男 94
		女 5	女 8	女 21	女 36	女 13	女 83
		計 10	計 21	計 46	計 63	計 37	計 177
各託児所合計	男 2	男 29	男 70	男 139	男 146	男 112	男 498
	女 1	女 38	女 77	女 105	女 119	女 80	女 420
	計 3	計 67	計 147	計 244	計 265	計 192	計 918

※ 財団法人 函館共愛会 昭和18年事業実績より筆者一部改変

託児所事業実績に関しては、表3にまとめた。表3からは、3歳から8歳までの子ども達が保育されていることが分かる。しかし、3歳児を保育している託児所は第一託児所のみであり、他の4園では3歳児を保育していない。5託児所併せて保育されている子どもは918名だったことが読みとれる。

昭和18年度事業実績で筆者が特に注目したのは、「総説」の次の文である。

「四月十五日より七月十四日に至る三月間、本会主催にて保母養成講習所を開設し、受講者三十名を算し、この中、保母適格証の交付を受けた者二十三名に及びたり仍講習生の大半は、市内及び郡部の託児所に斡旋就職せしめたり」

森合（2004）によると、「保母の養成が制度化されたのは、1948（昭和23）年であり、厚生省児童局長により通知された『保母養成施設及び運営に関する件』からである。しかし、法的に保母資格が定められたのは1926年のことであり、それまでは『小学校本科正教員又は準教員』という資格で保母になる例が多かったため、1926年、幼稚園令において『保母ハ幼児ノ保育ヲ挙ル、保母ハ女子ニシテ保母免許状ヲ有スル者タルベシ』と規定された。一方、託児所（保育所）については何の規定もなく、現実には、女子であれば誰でも託児所保母として就職することができたのである。」とされている。本格的に保母養成が行われるのは戦後になってからである。北海道では、1950（昭和25）年に北海道立保母専門学校が設立され、道内初の保母養成施設が誕生した。私学では学校法人野又学園の函館保母養成専門学院（夜間）が1955（昭和30）年に設立され、北海道で2番目の保母養成校が生まれた。

函館共愛会においては、戦後の保母養成に先駆けて保母講習会を行っていたことは特筆すべきことである。子ども達を保育するだけに留まらず、保母の裾野を拡大するための事業も展開されていたのである。

終戦前後の歩みについては、法人の沿革に沿って以下のように整理される。

1945（昭和20）年6月には、第二託児所（谷地頭）が札幌陸軍函館出張所として接收され、この間高野寺にて保育を継続する。終戦後の昭和20年10月には、共愛会館が進駐軍によって陸軍病院として接收され、さらには、第一託児所は米軍

の接收により保育を一時休止することになる。しかし、第一託児所は11月に返還され、共愛会館も昭和21年3月に返還され、これより従来どおりの事業が行われることとなる。

1947（昭和22）年12月12日に児童福祉法が公布され、これに伴い函館共愛会の各託児所の名称も「保育所」を意味する「保育園」に改称された。

第一託児所が「中央保育園」、第二託児所が「谷地頭保育園」、第三託児所が「高盛保育園」、第四託児所が「駒止保育園」、第五託児所が「亀田保育園」と改変された。

さらには、1952（昭和27）年5月1日 千歳町18番地に「千歳保育園」が開設され、合計6保育園となり、同年5月27日財団法人から社会福祉法人に組織変更され、社会福祉法人函館共愛会が誕生する。

図6は、6保育園が掲載された1955（昭和30）年の簡易パンフレットである。当時の保育園がどのような建物であったかがおおよそ理解できよう。

さて、1934（昭和10）年秋に函館市役所社会課内に財団法人函館共愛会が創立され、1994（平成6）年11月16日で60年を迎えた。社会福祉法人函館共愛会は、創立60周年記念事業として、中央保育園敷地内にモニュメント「この子らに未来を託して」（図7）を建立した。そのモニュメント後部には次のような文章が刻まれている。一部省略し、記載する。

「本会は、昭和9年3月21日夜半発生、函館市の三分之一を烏有に帰し二千七百余名の死者ならびに行方不明者を出す、未曾有の大火災に対して全国から寄贈を受けた義援金の中から百六十八万円の交付を受け、これを基金として昭和9年11月16日財団法人函館共愛会を設立したものである。（中略）当初は、大火災後の民生安定上緊急な事業として、市内に六百余戸の簡易住宅を建設したのを初め、託児所の運営、罹災市民の失業対策、職業紹介、及び授産の救済事務を行うと共に社会事業団体等への助成事業を行ってきた。昭和58年1月17日、老朽化した共愛会館の取り壊しにより、函館市中島町7番15号に新たに法人事務所を建設移転し、今日に至っている。この度、設立60周年にあたり、これを記念して共愛会館跡地に、このモニュメントを建設するものである。

平成6年11月16日
社会福祉法人 函館共愛会」



図6 1955(昭和30)年 社会福祉法人函館共愛会パンフレットより

まさに、函館共愛会は、函館大火により全国から寄せられた義援金で設立されたこと、そして、これまで行ってきた事業内容がそこに刻まれている。このモニュメントからは、未曾有の大火災を風化させないで将来に伝えていくという使命があったのだと考えられる。

函館共愛会は、2017年現在、創立から83年を迎える。初代理事長坂本森一の意思を受け継ぎ、社会福祉法人としては函館には欠かせない事業団体とし成長し続けている。理事長は、初代坂本理事長から数え13代目となり、2017年3月現在、近江茂樹氏が務めている。

1935（昭和10）年4月、3託児所から保育事業を開始した同法人は、現在は、時代の要請に応え、幼保連携型認定こども園として12園（駒止認定こども園、亀田認定こども園、高盛認定こども園、谷地頭認定こども園、千歳認定こども園、ゆりかご認定こども園、駒場認定こども園、つくし認定こども園、中央認定こども園、鍛冶さくら認定こ



図7「この子らに未来を託して」モニュメント
中央こども園 小川美保子園長 許可
筆者撮影（2016.11.11）

ども園, 赤川認定こども園, 南かやべ認定こども園)を擁し, 函館市内の保育事業の中心的な存在となっている。

5 まとめ

函館共愛会設立から現在まで80年以上の時間が経過しているため, 設立当時の資料の入手は困難を極めたが, 幸いにも函館中央図書館に函館共愛会に関する資料が6点存在していた。その他に関係文献と函館市誌等の資料を基に社会福祉法人函館共愛会の設立から現在までの展開過程を跡付けてきた。

これまでに1878(明治10)年に現在の乳児院の原型となっていく「さゆり園」の歴史(新沼・松田 2013)と1900(明治33)年に後の「くるみ学園」へと発展する, 函館慈恵院の歴史(松田・新沼 2106)を関連資料・史資料を基本として整理をした。

函館はいち早く開港した経緯から, 早くから外国文化, 特にキリスト教文化が根付き, カトリック修道女によって「さゆり園」の原型ができた。また, 戊辰戦争終結の場所でもある函館は, 箱館戦争によって民家が焼失し, 貧困問題, 捨て子や孤児が増加し, その子らの為に慈善家達が立ち上がり, 「孤児院」が運営されていく。そして, 紆余曲折を経ながら現在の乳児院である「さゆり園」と児童養護施設である「くるみ学園」へと発展し現在に至っている。

「さゆり園」と「くるみ学園」の設立年においては, 日本の社会事業史においても, 古い歴史を持つ施設であることが確認できた。今回筆者らが研究テーマにした函館共愛会設立の保育園については, 後に「函館大火」と言われる, 災害からの復興の足がかりとして, 当時の坂本森一函館市長による英断によって, 財団法人函館共愛会が設立され, その事業の一環が「保育事業」であった。

83年前の「函館大火」がどのような大火であったか理解できたのと同時に, この大火から人生が変わっていく人間模様も垣間見た。特に「興友社ホーム」・「愛の園」については, 苦労と借金をして子ども達の為, 託児所を運営していく様子が読み取れた。しかし, 一夜にして, その運営が絶たれた。その後, 大火という災害にもめげず, 子ども達の託児に対し希望を捨てることなく, 再建し

ていく力強さを感じた。

しかしながら, 社会事業統制の見地から財団法人函館共愛会に, この園は経営を移管することになり, 谷地頭保育園を含め, 1935(昭和10)年4月に新たに3園をもって保育事業が開設された。

本研究を通して, 明らかにされたことは, 1935(昭和10)年設立の函館共愛会が経営する保育園が函館で組織的に運営された最初の園であるということである。それは, いち早く規程を作成し, それに基づき保育をしていく様子と後進育成の為, 保母養成研修を施し, 函館市内はもとより, 近郊に保母を輩出していることが読み取れたことによるものである。

2017年現在, 函館市内の保育所は, 公立3園, 私立41園の合計44園設置されている。それらの模範となる保育事業の基盤を築いたのが現在の社会福祉法人函館共愛会であり, その保育の思想は「この子らに未来を託して」というモニュメントに象徴されている。

それは, 保育所保育指針解説書(厚生労働省編, 2008)の保育の目標に記載されている「保育とは, 子ども現在の現在と未来をつなげる営み」という考えに通底する。

「この子らに未来を託して」というモニュメントの言葉は, 時代を越えて尚, 現代に生きる我々に「保育とは何か」を問いかけるものである。

謝辞

社会福祉法人函館共愛会理事長近江茂樹氏には, 研究に賛同して頂き貴重な資料を提供して頂いた。また, 函館市教育委員会学校教育保健給食課長金野維子氏には, 函館中央図書館への協力にご尽力いただき, 中央認定こども園小川美保子園長先生には, 取材等で大変お世話になった。衷心より深謝申し上げる。

引用・参考文献

- 1) 函館大火災害誌(1937). 財団法人社会事業協会 2-7, 31-35, 38, 63-64, 287-294, 413-416, 685-686.
- 2) 函館市誌(1935). 函館日日新聞社 754-759.
- 3) 函館の大火史(2016). 函館市消防本部ホームページ <http://www.hakodate.hokkaido.jp>
- 4) 函館市社会事業施設概要(1936). 函館市社

- 会課 7-14.
- 5) 北海道気象月報・天気図・気圧 (1934). 函館市地方気象台火山防災調整係長葛西氏提供
 - 6) 北海道社会福祉事業史 (1987). 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 308.
 - 7) 保育小六法 (2010). 中央法規出版株式会社 304.
 - 8) 厚生労働省編 (2008). 保育所保育指針 株式会社フレーベル館 21.
 - 9) 松田賢一, 新沼英明 (2016). 函館市における社会事業史研究②—育児講, 函館慈恵院, 函館厚生院への展開を中心として, 函館短期大学研究紀要42:57.
 - 10) 新沼英明, 松田賢一 (2013). 函館市における社会事業史研究①—カトリック宣教と乳児院さゆり園の展開を中心にして—, 函館短期大学研究紀要39
 - 11) 森合真一 (2014). 保育政策の歴史的展開と保育士養成 近畿大学豊岡短期大学論集第11号 1-2.
 - 12) 穴戸健夫 (2014). 日本における保育園の誕生 子どもの貧困に挑んだ人々 新読書者 185-195.
 - 13) 作山すみ子 (1995). 砂山の子らと共に—愛の国拓所創立の頃 清野タニさん—道南の女たち 道南女性史研究会編著 137-145.
 - 14) 白石崇人 (2013). 幼児教育とは何か 社会評論者 70.
 - 15) 社会福祉法人 函館共愛会 (1950). 簡易パンフレット
 - 16) 社会福祉法人 函館共愛会 沿革 (2001). 1-14.
 - 17) 財団法人 函館共愛会要覧 (1940).
 - 18) 財団法人函館共愛会例規 (1939). 33-35.
 - 19) 財団法人函館共愛会事業実績 (1943). 1-12.
20財団法人函館共愛会財政並びに事業概況 (1948). 1-7.
-
- 1 1887 (明治16) 年1月7日東京に生まれる。東京育英館中学を経て、第一高等学校に入学、1942年東京帝国大学法科大学政治科を卒業する。昭和4年12月27日, 第4代函館市長に就任し, 8年再選する。昭和9年3月21日函館大火が起こり, 坂本市長は焦土に立って陣頭指揮をとり復興に当たった。また, 意気消沈する市民に元気を出そうと提案したのが「函館港まつり」だった。昭和22 (1947) 年9月18日病没。9月27日慰霊堂にて市民葬が執り行われた。慰霊堂敷地内に昭和24年「坂本森一供養碑」が建立された。(出所: 「ステップアップ」公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団vol.238,2009,1)
 - 2 筆者らは2016年8月30日に, 日本銀行函館支店鈴木氏に, 昭和9年の金額を現代に当てはめるとどのくらいの金額になるかについて尋ねた。昭和9年の企業物価指数は, 0.969である。平成27年度の企業物価指数は, 710.5であり, 昭和9年からみると733倍となることから, 当時の金額に733を掛け, 当該数値を算出した。
 - 3 同上